



むかしむかしの素敵なピアノ展 in 東京



楽器博物館初の東京でのコレクション展覧会「むかしむかしの素敵なピアノ展-19世紀に咲いた華-」が、8月1日（木）より東京銀座のヤマハ銀座店スタジオで始まりました。これは浜松で生まれ今も浜松に本社を置く世界的な楽器メーカー、ヤマハ株式会社の創業125周年を記念する催し物の一環として、また、浜松市が誇る世界的な楽器博物館の東京でのコレクション展として、両者の共催で企画されたものです。企画には楽器博物館のコンサートやCDでご協力いただいているフォルテピアニストの小倉貴久子さんと鍵盤音楽史研究者の筒井はるかさんも加わっています。

展示されているピアノは、19世紀のオリジナル5台と、現存する最古の1720年クリストフォリ作のピアノ（オリジナルはメトロポリタン博物館所蔵）のレプリカの計6台。オリジナルは、1802年ロンドンのブロードウッド作、1810年ウィーンのワルター&サン作、1820年頃ウィーンの伝グラフ作、1874年パリのエラル作のグランド型ピアノ、そして1820年ロンドンのブロードウッド&サンズ作のスクエア・ピアノです。どの楽器もピアノの歴史上、誕生地であるフィレンツェと、その後のピアノ製作発展の中心であったウィーン、ロンドン、パリの名工の手による素晴らしい楽器です。

ピアノは、誕生したのが1700年頃のイタリア・フィレンツェ。大富豪メディチ家の楽器コレクション管理者で

チェンバロ製作者でもあったバルトロメオ・クリストフォリにより、チェンバロを改造して発明されました。この新楽器の当時の名称は「グラヴェチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ」、意味は「ピアノ（弱音）とフォルテ（強音）の出る大型チェンバロ」。そうです、当時はまだピアノという名ではなく、あくまでもチェンバロだったのです。では従来のチェンバロとはどこが違うのか？

チェンバロは、ピンセットの先のような小さな爪で、弦をはじいて鳴らします。キーを強く押しても弱く押しても、この爪が弦をはじく強さは構造上変わりません。音を大きくしたい時は、ひとつのキーではじく弦の数を2本や3本にします。しかし、音を小さくしたい時は、はじく弦の数を1本よりも少なくはできませんから、1本よりももっと小さな音を出すことができます。クリストフォリは、この課題を、弦をはじくのではなく、打つ、という方法で解決したわけです。つまり、キーを押すタッチを強くすれば大きな音（フォルテ）、弱くすれば小さな音（ピアノ）が出せるようにしたのです。演奏者の指先のタッチで、音量の変化の度合いを無限大に可能にしたと言えるでしょう。

しかし、この新発明の楽器は、当時はそれほど人気がありませんでした。世に紹介され始めたのはイタリアでは1710年以降、ドイツには1730年頃です。



銀座中央通りに面して掲げられた看板

その後 70 年ほど、さほど人気はありませんでした。これは音色を聴けばすぐにわかることなのですが、新楽器の音色は、当時の貴族社会の花形鍵盤楽器であるチェンバロに比べると、それはそれは地味で音量も小さかったからです。それにチェンバロ用の曲をこの楽器で弾いても、チェンバロでの演奏にはかなわなかったのです。

1731 年にクリストフォリは世を去りますが、この新楽器のための作品がやっと作られたのが 1732 年。それはジュスティーニによるソナタ集「チェンバロ・ディ・ピアノ・エ・フォルテ、すなわち、いわゆる小さなハンマー付きチェンバロのためのソナタ」でした。その楽譜には、フォルテとピアノの指示が記載され、タッチによる突然の強弱の変化やクレッシェンド、ディミニエンドが効果的に使用されています。



7月28日楽器搬入風景

モーツァルトを経て時代は 19 世紀に入ります。貴族文化に代わって市民文化が花開きます。それと同時にピアノ文化もいっせいに「華」開くのです。ウィーンではモーツァルトも愛奏した名工ワルターのピアノがますます輝きを見せます。ワルターは「帝室・王室宮廷オルガン製作家 / 市民階級の楽器製作家」という称号を持つ名工。ロンドンのブロードウッドはクリストフォリの流れを汲むピアノで、産業革命の影響から最新の工業技術をピアノにも取り入れた王室御用達の名工。その力強い響きには、ハイドンやベートーヴェンが非常に刺激を受けて作品を作りました。ウィーンのグラーフも「帝国・国王宮廷ピアノ製作家」の称号を持つ名工。彼のピアノはシューベルト、ブラームス、シューマン、クララ・シューマンなどに愛されました。パリのエラールは、フランス国王ルイ 16 世お墨付きの名工。19 世紀始めには、現代のグランド・ピアノに直接つながる「ダブル・エスケープメント」というアクションを発明してすばやい連打を可能にし、その後のヴィルトゥオーゾ的演奏への道を開きました。その技術面もさることながら、音色にもこだわり続け、優雅で華麗な響きはパリのサロンで愛されました。リスト、ドビュッシー、ラヴェルなどの作品を演奏すると、このピアノにかなう楽器は無いかもしれません。スクエアピアノは小さいので場所もとらず、価格もグランド型に比べれば手頃。

市民へのピアノ文化の浸透に大きな役割を果たしました。可愛い音色は、えもいわれぬ魅力を持っています。

このようなピアノが一堂に見られるこの展覧会ですが、魅力はもうひとつ。毎日午後 1 時、3 時、6 時の 3 回、

各回 30 分間ほど、小倉さんの門下生による展示ピアノの解説とミニコンサートがあります。音はとにかく実際に聴いてみないとわかりません。同じピアノ



初日のミニコンサートは荒川智美さん

とはいえ、6 台すべての音色、音量、響きが違います。そうなんです、6 台というよりも、19 世紀のピアノは時代、土地、製作者によって、すべてタッチも響きも違うのです。国際標準というのはないのです。ですから、それぞれのピアノに、個性と魅力があるのです。楽器博物館には 50 台ほどの 19 世紀のピアノがありますが、どれひとつとして同じ響きのものはないのです。



今回の展覧会の目的は、まさにそこにあります。会場入り口のメッセージには、こんな一文があります。

「きっと私たちは、この展覧会を見る（聴く）なかで、むかしのピアノは地域や作る人によって個性があったこと、大きなホールではなく小さなサロンや部屋で弾かれていたこと、弦楽器の音色や人の声とよく溶け合うことなど、いろいろなことに気が付くでしょう。」

会場にはピアノ以外の楽器も含めた鍵盤楽器の歴史年表や、キーの数の拡大のパネル、チェンバロ、クラヴィコード、ピアノのアクションのはねあげ式（ウィーン式）と突き上げ式（イギリス式）の根本原理の模型も展示され、子供達の夏休みの自由研究にもぴったりです。子供用ワークシートもあります。この夏は、是非東京展覧会にお出かけください。また、会期中 12 日と 24 日にはサロンコンサート、29 日の会期終了の翌日 30 日には記念コンサートがあります。詳細は楽器博物館またはヤマハ銀座店スタジオのホームページをご覧ください。



会場で配布されるパンフレット

8 月 1 日（木）～ 29 日（木）
11:00 ～ 19:30（入場は閉場 30 分前まで）最終日は 17:00 閉場
500 円（未就学児童は無料）ヤマハ銀座店スタジオ
問い合わせ 0120-123-221（平日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00 土日祝日定休）

ミャンマー文化使節団来館、伝統楽器サイン・ワインを演奏



ミャンマーという国は、今脚光を浴びています。長年の軍事政権が 2010 年に終わり民主政権が誕生。それに伴って、日本を始め世界各国との国交が再出発しました。阿部首相が昨年ミャンマーを訪問、今年 4 月にはアウンサンスーチーさんも来日しました。日本との経済・文化交流もこれからますます活発になることでしょう。

そのさきがけとして、6 月に国際交流基金の招きにより、ミャンマー文化使節団が来日し、東京でコンサートとワークショップを開催されました。使節団はヤンゴン芸術大学副学長を団長に、教官 2 人と大学 2 年生 7 人の計 10 人。学生は全員 18 歳の女学生で、ミャンマーの伝統音楽の将来を担う逸材です。東京での過密なスケジュールをこなされたあと、7 月 3 日の京都観光への道すがら、なんと楽器博物館に寄っていただきました。

東京でのコンサートには、当館所蔵の伝統楽器サイン・ワインをお貸ししたのですが、それが博物館に戻ってきましたので、彼女達に早速組み立ててもらい、3時から15分間、伝統音楽の演奏を披露していただきました。

サイン・ワインは円形に配置された太鼓と鐘を中心にしたアンサンブルです。金色に輝くその姿は豪華華麗。大きな太鼓を吊るしている枠の動物は、想像上の吉祥の動物ピンサツ・ユーパです。

想像以上に大音量でリズムの激しい音楽が奏でられ、ちょうど居合わせた年配の見学者の団体も、突然のコンサートに大感激、拍手喝采でした。一行はこのあと新幹線で京都へ。4日は京都観光をして（皆さん熱心な仏教徒ですから、お寺めぐりをするそうです）、夜には東京へ戻り、5日の昼に成田から帰国されました。

今はまだめったに聴く機会が無いミャンマーの伝統音楽ですが、今後は演奏者の来日も多くなることでしょう。彼女達がいつかまた日本に来て、浜松でコンサートをしていただけるといいですね。



手際よく楽器を組み立てるメンバー。皆さんとっても爽やかな、ちょっと恥ずかしがり屋の素敵な女学生でした。

コレクションシリーズCD アジア編第2弾 青銅打楽器の輝き “ジャワ・ガムラン”



コレクションシリーズアジア編第2弾は、インドネシア、ジャワ島中部に伝承する、青銅打楽器の大型アンサンブル、ガムランです。演奏は東京で活動されている、日本でのジャワ・

ガムラン演奏のパイオニアで最高峰でもあるガムラングループ“ランバンサリ”の皆さん。

ガムランと言えばインドネシアを代表する伝統楽器、伝統音楽ですが、どちらかという、ジャワ島のものよりも、観光地として有名なバリ島のものが有名です。バリ舞踊とともにその伴奏を担当するガムランは、古くから欧米人や日本人を魅了し、世界に広まってきましたが、実は、歴史的に見ると、ジャワ島の古都

ジョグジャカルタやスラカルタ（ソロ）の王宮を中心に発達したガムランのほうが、バリ島のものよりも、歴史も古く編成も大きいのです。ジャワ島にも伝統舞踊があり、その伴奏にも使うガムランですが、音楽も舞踊もバリ島に比べると、ゆったりとした地味なものであるがために、また、ジャワ島の観光地としての知名度もバリ島よりも小さいことから、一般にはあまり知られていません。

しかし、奥深さはバリ島に勝るとも劣らず。一度その深遠な世界を味わえば、ジャワ舞踊やガムランの虜になる人も多いのです。

この CD は、初心者や子供達にもわかりやすいように、比較的短くてメロディのはっきりした曲を集め、ジャワ・ガムランの入門用に企画しました。各楽器の音も収録し、ガムランの参考書性格も持っています。インドネシア国立芸術大学スラカルタ校教授ラハユ・スパンガ博士からも高い評価をいただきました。

亜熱帯化している日本のこの暑い夏、ジャワ・ガムランの CD で、ゆったりとした時間を過ごしてみませんか。

特別レクチャーとコンサート プロイセン王国 フリードリヒ大王の生涯と音楽



レクチャー

世界的フルーティストである有田正広さんをお招きし、特別レクチャーとコンサートを開催しました。レクチャーは《フリードリヒ大王の生涯と音楽》と題しフリードリヒ大王の素顔に迫りました。

フリードリヒ2世（のちの大王）は父親であるフリードリヒ1世に反対されながらも音楽とフルートを愛し続け、自ら多くの曲を作曲しました。プロイセン国王になってからは自身で設計したサン・スーシ宮殿に音楽の広場と呼ばれる広間をつくりました。そこには、多くの音楽家が集い、そこでベルリン楽派とよばれる独特の音楽様式が花開きました。大王のフルートの先生であるクヴァンツや専属チェンバロ奏者のカール・フィリップ・エマニュエル・バッハなどが活躍します。レクチャーの中では実際にカール・フィリップ・エマニュエル・バッハが献呈したフルート・ソナタの一部を、有田さんの生演奏や、CDで紹介しながら話が進められました。

貴重なフルート数本を使っの演奏は大変聴き応えがあり、とても贅沢なレクチャーとなりました。戦地へ行くにもフルートを手放さず少しでも時間があれば演奏していたことや、2頭の愛犬と常に一緒にいたこと、絶大な信頼と人気を得ていたことなど、人間フリードリヒ大王とはどんな人物だったかを垣間見ることができました。

レクチャーではフリードリヒ大王という人物像に迫りましたが、コンサートでは大王のフルートの師であるクヴァンツや礼拝堂に仕えたフランツ・ベンダ、お抱えチェンバロ奏者のカール・フィリップ・エマニュエル・バッハといった音楽家についてのお話を交えながら、ベルリン楽派の

フルート曲が紹介されました。プログラムは大王作曲の「フルート・ソナタ ホ短調」からはじまりました。クヴァンツ作曲の「フリードリヒ大王のための練習曲集から」では大王の演奏技術の高さが伺えました。難しすぎても大王は不満になるでしょうし、簡単すぎてもいけない、とても難しい作曲だったのではないのでしょうか。その他にもJ.G. ミューテル作曲「フルート・ソナタ ニ長調」、J.S. バッハ「フルート・ソナタ ホ長調 BWV 1034」などが演奏されました。

使用したフルートは大王に仕えてフルートを製作していたキルストの楽器（有田さん所蔵）や、フリードリヒ大王の宮殿内で使われていたと思われるフライヤー1世が製作した貴重な楽器（当館所蔵）。チェンバロは当館所蔵のブランシェ2世作（パリ、1765年）のものです。フルートはホールでよく響くよう木製や象牙製から金属製へと変化し、音色も大きく華やかになってきましたが、このコンサートでは当時のフルートの、やさしく、優雅な音色を楽しみました。フルートの演奏家や音楽ファンにとって貴重で大変参考になる時間となりました。

〈レクチャー〉

日 時：平成 25 年 4 月 27 日（土） 14:00～16:00
会 場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
講 師：有田正広（フルート） 有田千代子（チェンバロ）
受講者：38 人

〈コンサート〉

日 時：平成 25 年 4 月 28 日（日） 14:00～16:00
会 場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出 演：有田正広（フルート） 有田千代子（チェンバロ）
入場者：78 人



コンサート

レクチャーコンサート 月の光に誘われて ～エラール・ピアノとフランスのうた～ 19世紀末パリのエスプリ



当館所蔵のエラール製のピアノ（パリ、1874年）を使ってコンサートを行いました。プログラムは丁度このピアノが誕生した19世紀、フランスで活躍していた作曲家の作品です。画家ヴァトーの絵に触発されヴェルレーヌという詩人は「月の光」という詩を書きました。この詩にインスピレーションを受けてドビュッシーはピアノ曲と歌曲を作り、フォーレも歌曲を作っています。同じ歌詞からこれだけ雰囲気の違いになるんだな、と聴いていたお客様は思ったのではないのでしょうか。

その他にもアーン「私の言葉に羽があったなら」、フォーレ「夢のあとに」、サティ「ジュ・トゥ・ヴ」

といったフランス歌曲や、ドビュッシー「喜びの島」、サティ「ジムノペディ第1番」などのピアノ曲が演奏されました。まるでパリのおしゃれなカフェでゆっくりと音楽を楽しむ贅沢な雰囲気でした。タイトルにある「エスプリ」とはフランス語で精神、知性を意味します。お2人のお話も大変興味深く、少しの間ですが、フランス詩から感じられる魅力に誘われて優美で幻想的な世界に浸りました。

日時：平成25年7月1日（月） 19:00～21:00
会場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出演：小倉貴久子（ピアノ） 野々下由香里（ソプラノ）
入場者：74人

レクチャーコンサート 「ブラスバンド～英国、そして世界へ～」



一般的にブラスバンド＝吹奏楽と思われていますが、本当は違います。ブラスバンドとは文字通りブラス＝真鍮製の楽器の楽団、つまり金管楽器のみの楽団のことです。ルーツは19世紀のイギリス。ホルネットやトロンボーン、ユーフォニアム、バス、そしてホーンセクションと呼ばれるフリューゲルホルンやテナーホーン、バリトンを使いますが、トランペットは使いません。金管楽器ですが、木管楽器に勝るとも劣らない柔らかな響きがします。

今回は、日本でも屈指の実力を誇る地元浜松の浜松ブラスバンドの皆様をお招きして、英国式ブラスバンドの歴史と魅力を探りました。

指揮と解説は、多田宏江さん。第一部はブラスバンド

の歴史を辿って、楽器の紹介や編成を中心にお話と曲を演奏。第二部は、世界に広まったブラスバンドの変化を紹介。また、本場のイギリスで行われているコンクールやフェスティバルの様子など映像や写真を使いながら、多田さんが現地で調査された興味深いお話を披露して下さいました。ルーツからはじまり、大きく変化したブラスバンドの楽器編成や楽曲の違いをたっぷり楽しみました。

日時：平成25年7月7日（日） 14:00～16:00
会場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出演：浜松ブラスバンド 多田宏江（指揮・解説）
岡本篤彦（ホルネット・ソロ）
入場者：82人

レクチャーコンサート **リュートの歴史** ～シェイクスピアからパーセルへ イギリス劇音楽をたどる～

楽器博物館所蔵のリュート（おそらく 1541 年 ドイツ製）を使用してレクチャーコンサートを開催しました。女王エリザベス 1 世の統治下、16 世紀後半に活躍したイギリスの劇作家シェイクスピアは、その舞台上で音楽を効果的に使いました。その音楽の中心的役割を担った楽器がリュートです。当時、音楽は教養のひとつとして考えられ、王侯貴族はリュートをたしなんでいました。17 世紀になると、国王チャールズ 2 世のもと、イギリスは繁栄を極め、大作曲家ヘンリー・パーセルが活躍します。彼の劇音楽もまた、リュートをドラマティックに使いました。このコンサートでは、そのようなイギリス劇音楽最盛期の作品を、佐野健二さんのリュート、奥田直美さんのリコーダー、平井満美子さんのソプラノで楽しみました。

またコンサートに先立って、同じテーマで楽器博物館コレクションシリーズの CD 録音も行いました。発売は 2014 年 4 月の予定です。どうぞお楽しみに。



日時：平成 25 年 4 月 26 日（金） 19：00 ～ 20：30
会場：楽器博物館天空ホール
出演：佐野健二（リュート） 奥田直美（リコーダー）
平井満美子（ソプラノ）
入場者：50 人

レクチャーコンサート「音の錦、雅なるサントゥール」 & レクチャー「素顔のイラン」



5 月の大型連休をはさんでの展覧会と講座・コンサートの企画「悠久のペルシャ」。5 日の夜はレクチャーコンサート「音の錦、雅なるサントゥール」を開催しました。サントゥールは台形の箱型胴体に 72 本の金属弦を張り、両手に持った小さな木のバチで弦を叩いて音を出す楽器。紀元前 1600 年頃からアッシリアに祖形が見られ、13 世紀頃からはペルシャで盛んになりシルクロードを伝わってヨーロッパや中国に伝わりました。中国のヤンチンやハンガリーのツインバロンの祖先です。弦を叩くという意味ではピアノの祖先といわれることもあります。

演奏は日本に 40 年生まれ、日本とイランの文化交流に大きな貢献をされたプーリー・アナビアンさんとその門下生の皆さん。太鼓のトンバクも加わって、遙か数千年の歴史を持つ異国の響きを楽しみました。また、ペルシャ文化伝道師ダリア・アナビアンさんによりスライドを使いながらペルシャ音楽の歴史について解説がありました。



この日の昼間は研修交流センターにて「素顔のイラン」と題するレクチャーをダリア・アナビアンさんのお話で開催しました。マスコミなどで報じられる現代のイランはあまり明るいニュースが無いのですが、数千年のペルシャの人びとの歴史を知ると、日本の文化との共通点がとても多く、受講生は、イランを身近に感じたことでしょう。

〈レクチャー〉

日時：平成 25 年 5 月 5 日（金）14：00 ～ 16：00
会場：アクトシティ浜松 研修交流センター
講師：ダリア・アナビアン
受講者：42 人

〈コンサート〉

日時：平成 25 年 5 月 5 日（金）18：30 ～ 20：00
会場：楽器博物館天空ホール
出演：プーリー・アナビアン（サントゥール）
河村真衣（サントゥール/トンバク）
内海恵（サントゥール） ダリア・アナビアン（お話）
入場者：54 人

ゴールデンウィーク ミュージアムサロン 「身体は跳ねる、心は躍る～ヨーロッパ民族舞踊の楽しみ」

5月3日と4日に天空ホールにてミュージアムサロンを行いました。出演は50年の歴史を持つ京都大学民族舞踊研究会の皆さんです。この研究会では、普段からハンガリー、ルーマニア、ロシア、ブルガリア、ギリシャといった東欧、バルカン諸国の踊りの種類を研究し、広める活動をしています。

ヨーロッパの踊りというとバレエや社交ダンスなど、クラシックなイメージがありますが、今回は庶民のフォークダンスです。酒場でお酒を飲みながら踊るものや、お祭りで踊るものなど、振り付けの意味の解説を交えながらさまざまな踊りが紹介されました。男女ペアになって踊ったり、グループで丸くなって踊ったり、女性2人で同じステップを踏んだり、踊るスタイルもさまざまです。衣装も色とりどりで美しく、各日3回ずつ、踊りの内容と衣装をかえながら披露してくれました。簡単なステップでお客様と一緒に踊るコーナーはとても盛り上がりました。

音楽は、普通の2拍子や4拍子だけではなく、7拍子や9拍子という複雑な拍子もあります。楽器はバグパイプなどが使われます。

踊りと一緒に東欧の音楽を感じることができる貴重な2日間となりました。



日時：平成25年5月3日(金) 14:00 15:00 16:00
平成25年5月4日(土) 11:00 13:30 14:30
会場：楽器博物館天空ホール
出演：京都大学民族舞踊研究会
入場者：388人

イブニングサロン 「音の万華鏡、ジンバブエのムビラ」



『ムビラ』は日本では『親指ピアノ』と呼ばれています。アフリカ南部の国ジンバブエに住むショナ族に古くから伝わる楽器です。ショナ族の儀式では、ムビラの演奏を通して精霊に助けを求め、感謝を示してきました。現代でも都会から遠く離れた田舎の長老達や年齢の高いムビラ演奏家達の間で様々な伝説が力強く息づいています。

ガリカイ・ティリコティ氏は初来日。ジンバブエ各地で伝統儀式の際に演奏する伝説の演奏家です。古くからの伝説や歴史の話、そして時に繊細で優しく語り、時に激しく雄々しいムビラの音色を響かせました。また、ガリカイ氏の長男であるトンデライ・ティリコティ氏も

ムビラの演奏をしました。解説はアフリカで修行し、現在日本でムビラを広める日本人ムビラ奏者のSUMIさん。

お祈りのための唄やライオンの伝説の唄、成人の儀式のための唄など、様々な音楽と解説で1時間を楽しみました。最後は、全員でアフリカの簡単なステップを教わってガリカイ・ティリコティ氏の演奏にあわせて、全員で音楽に心酔しました。アフリカのリズムとムビラの優しい音響に包まれ、アフリカの大地に思いを馳せる演奏会となりました。

日時：平成25年6月21日(金) 19:00～20:00
会場：楽器博物館天空ホール
出演：ガリカイ・ティリコティ トンデライ・ティリコティ
SUMI 松平勇二 入場者：52人

この夏、浜松では「スイングする鉄筋彫刻 パート2」を開催



昨年の展示風景

昨年5月に開催し好評だった、徳持耕一郎さんの鉄筋彫刻作品を集めた展覧会「スイングする鉄筋彫刻」のパート2を8月7日より開催します。作家生活20周年という徳持さんにとっても記念すべき年ですが、今回は展示スペースも昨年の1.5倍に拡張。展示作品の数も増える予定です。会期中9日(金)には「スムーズ・スイート・スチールパン」、22日(木)には「今宵、ピアノトリオ」と題したコンサートを夜7時から会場にて開催。彫刻に囲まれたお洒落な空間でジャズ系ミニコンサートを楽しんでいただきます(有料・限定50人・チケット前売中)。

博物館日誌

- 4/26(金) レクチャーコンサート
「リュートの歴史～シェイクスピアから
パーセルへ・イギリスの劇音楽をたどる」
19:00 天空ホール 出演：佐野健二、平井満美子、奥田直美
入場者：50人
- 4/27(土) レクチャー 「プロイセン王国・フリードリヒ大王の生涯と音楽」
14:00 音楽工房ホール 講師：有田正広、有田千代子 受講者：38人
- 4/28(日) レクチャーコンサート「プロイセン王国・フリードリヒ大王の生涯と音楽」
14:00 音楽工房ホール 出演：有田正広、有田千代子 入場者：78人
- 5/3(金) ミュージアムサロン
「身体は跳ねる、心は躍る～ヨーロッパ民族舞踊の楽しみ」
14:00&15:00&16:00 天空ホール
出演：京大民族舞踊研究会 入場者：166人
- 5/4(土) ミュージアムサロン
「身体は跳ねる、心は躍る～ヨーロッパ民族舞踊の楽しみ」
11:00&13:30&14:30 天空ホール
出演：京大民族舞踊研究会 入場者：222人
- 5/5(日) レクチャー「悠久のペルシャ 素顔のイラン」
14:00 研修交流センター お話：ダリア・アナピアン 受講者：42人
レクチャーコンサート「悠久のペルシャ 音の錦、雅なるサントウール」
18:30 天空ホール
出演：プーリー・アナピアン、内海恵、河村真衣、
ダリア・アナピアン(お話) 入場者：54人
- 5/12(日) ミュージアムサロン「アングルンを弾こう！」
11:00 天空ホール 出演：当館職員(梅田徹) 入場者：17人
- 6/3(月)～6(木) 移動楽器博物館 浜松市立泉居小学校
- 6/18(火)～19(水) 移動楽器博物館 浜松市立佐久間小学校
- 6/21(金) イブニングサロン 「音の万華鏡、ジンバブエのムビラ」
19:00 天空ホール 出演：ガリカイ・ティリコティ、
トンデライ・ティリコティ、SUMI、松平勇二 入場者：52人
- 6/24(月)～26(金) 移動楽器博物館 浜松市立中郡小学校
- 7/1(月) 市制記念日 無料入館日 入館者：346人
レクチャーコンサート
「月の光に誘われて～エラール・ピアノと
フランスのうた～19世紀末パリのエスプリ」
19:00 音楽工房ホール 出演：小倉貴久子、野々下由香里
入場者：74人
- 7/3(水) ミュージアムサロン「サイン・ワイン」15:00
出演：ヤンゴン文化芸術大学 入場者：53人
- 7/7(日) レクチャーコンサート 「プラスバンド～英国、そして世界へ～」
14:00 音楽工房ホール 出演：浜松プラスバンド、
多田宏江(指揮・お話)、岡本篤彦(コルネット・ソロ) 入場者：82人
- 7/21(日) レクチャーコンサート
「インドネシア ジャワ島の世界無形遺産
影絵人形芝居ワヤン・クリ ビモと人食い鬼」
14:00 (プレトーク 13:15)
出演：ローフィット・イブラヒム(ダラン：人形遣い)、
ピントランラス(ガムラン演奏) 入場者：117人
- 7/24(水) イブニングサロン「共鳴弦の陶醉、ヴィオラ・ダモレ」
19:00 天空ホール
出演：Duo Sweet17(田辺晴子、コルネル・ル・コント)
入場者：70人

- 7/28(日) ミュージアムサロン「アフリカの楽器」14:00、15:30
出演：ロビン・ロイド 入場者：121人
- 7/30(火) ミュージアムサロン「アングルンを弾こう！」14:00
天空ホール 出演：当館職員(梅田徹) 入場者：53人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- 東京展覧会「むかしむかしの素敵なピアノ展-19世紀に咲いた華-」
8/1(木)～8/29(木) 会場：ヤマハ銀座スタジオ
- 企画展「スイングする鉄筋彫刻 part2～徳持耕一郎作品による～」
8/7(水)～9/8(日)
- 企画展コンサート
「スムーズ・スイート・スチールパン」
8/9(金) 19:00 展示室
出演：村治進、田島隆、照喜名俊典、アリシア・サルデーニャ
「今宵、ピアノ・トリオ」
8/22(木) 19:00 展示室
出演：藤森潤一、星合厚、鈴木辰美、鈴木麻美
- レクチャーコンサート
「笛・ふえ・フエ～楽しいぞ！リコーダーと仲間たち～」
8/25(日) 14:00 音楽工房ホール 出演：吉澤実、永田平八
- 夏休み子どもワークショップ
「インドネシアの影絵人形 ワヤン・クリを作ろう！」
8/3(土) 13:30 展示室 講師：ローフィット・イブラヒム、佐々木宏美
- 講座
民族誌ドキュメンタリー映画とフルーサー(ひょうたん笛)のコンサート
「死者の旅の歌～中国少数民族タイ族の声と笛とくらし～」
9/6(金) 19:00 天空ホール 講師：伊藤悟
- ミュージアムサロン「電子チェンバロとクラシックオルガンの集い」
8/24(土) 13:00 天空ホール
ゲスト：中野振一郎(電子チェンバロ)、公月愛子(電子チェンバロ)、
上野美科(ヴァイオリン)
- ミュージアムサロン 14:00&15:30(天空ホール)
8/2(金) 「チター&ヴァイオリン」(14:00) 出演：打越島3、当館職員
8/4(日) 「ブルーグラスバンド」 出演：カントリーフロンティア
8/10(土) 「サクソフォンアンサンブル」 出演：浜松サクソフォンクラブ
8/11(日) 「クラリネットアンサンブル」
出演：浜松クラリネットクワイアー
8/14(水) 「アルパ」 出演：長島忠之、パブロ・テロネス
8/17(土) 「中国の阮」(11:00) 出演：タク・ソク・ティエン
「古代琴」(15:00) 出演：遼安
8/18(日) 「オカリナ」 出演：音心(えんじろう、亮子)
8/25(日) 「アングルン」(11:00&14:00&15:30) 出演：学芸員実習生

浜松市楽器博物館だより

平成25年8月2日発行 No. 78. 79 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL http://www.gakkihaku.jp/